

＝動労第三六回全国大会方針(案)批判＝

「大胆な妥協」で組合員の利益が守れるか？！

職場生産点から国鉄三五万人体制攻撃

粉碎の叩く体制を構築しよう！

動労第三六回定期全国大会は、いよいよ真近にせまった。今日、国鉄当局は、三五万人体制攻撃の突破口としての五五・一〇ダイ改Ⅱ全国的な大合理化攻撃を強行しようとしている。この厳しい攻撃を前にして、動労「本部」反動分子がいかなる「反合理化方針」を全国大会に提起しようとしているのか。本号では、彼らの「反合理化方針」の反動性と裏切り。屈服の路線について明らかにする。

「大胆な妥協」は、
屈服と裏切りの路線

全国大会方針(案)の「運動の基調」の項において動労「本部」反動分子はついに公然と国鉄三五万人体制攻撃に大胆に屈服するつぎのような方針を掲げている。すなわち「第四には、原則的なたかひの展開と現実的対応の関係であります。……われわれをとりまく内外の情勢から……大胆な妥協も……」

つまり、動労をとりまく情勢が厳しいから合理化絶対反対の「原則的なたかひ」を放棄し、「大胆な妥協」の路線に踏み切る、というのである。

しかし、国鉄三五万人体制攻撃が一九八五年までに七万四千人の要員合理化を推進し、このことを通して同時に国鉄労働運動をも解体せんとする恐るべき攻撃であることは、すでに「日刊」などで何度も明らかにしてきた通りである。

今こそ、国鉄三五万人体制攻撃を正しくとらえ、真に闘う方針を確立しなければならぬ。

「大胆な妥協」は組合員の
利益にとって有効か？

さらに「……大胆な妥協も、その条件により組織と運動、組合員の利益にとって有効である場合には踏み切ることも必要になるといえます。」

しかし、「大胆な妥協」がはたして、組合員の利益にとって有効であるのか。われわれは、かつて、助士廃止反対闘争において「ふりかかる火の粉は振り払わなければならない」として組織の存亡をかけて数波に渡る全国統一闘争を闘い抜いた。そして、結果的には、助士廃止を許したとはいえ、この闘いの中でつちかわれた組織力・戦闘力をもって、その後のマル生粉砕闘争へと引き継ぎ、かつてない強固な組織体制を確立してきたのである。

こうした闘いを経て確立された動労の合理化絶対反対路線は、動労「本部」反動分子によって、武操合理化への屈服、五五・一〇における貨物安定宣言にみられるようにすでに放棄され、ふみにじられてきたのである。そして今日、はたまた国鉄三五万人体制攻撃に対して「大胆な妥協」などと文字通り、大胆な屈服と裏切りの方針が提起されようとしているのである。

われわれは、国鉄当局・支配階級の攻撃が厳しいからといってそこをさけて通ることは出来ない。正しい方針のもとに強固に団結した力をもって敵の攻撃をはねかえす以外にないのである。

「大胆な妥協」路線を粉碎し、
五五・一〇ダイ改阻止、三五万
人体制粉砕へ決起しよう！

もはや、「本部」反動分子の「反合闘争」方針が屈服と裏切りの路線であるばかりか、合理化積極推進派に転落したといえよう。

全組合員のみなさん。

五五・一〇を突破口とする国鉄三五万人体制がかってない大合理化攻撃であると同時に国鉄労働運動の解体をもくろむ恐るべき攻撃であることを全組合員がつかみとり、闘いに決起しようではないか。

われわれは、昨秋二波にわたる反合・三里塚・ジェット闘争、さらに反処分・「再建千葉地本」デッチ上げ策動粉砕の闘いに自信と確信をもって五五・一〇ダイ改阻止、乗務員運用合理化・検修合理化粉砕の闘いに決起し、五六・三ジェット燃料貨車輸送期限延長粉砕にむかって闘い抜こう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

日刊動労千葉

80.8.15

No. 508

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九(公衆)五三二・七二〇七